

## 設計・計画部門



た じ だい すけ  
太 治 大 輔

生年月日 1982年2月兵庫県生まれ  
最終学歴 2006年広島大学大学院  
工学研究科  
社会環境システム専攻  
修士課程修了  
業務経歴 2006年(株)竹中工務店入社  
現在本社開発計画本部  
●担当した主なプロジェクト  
御堂筋まちづくりネットワーク  
福岡市中央児童会館建替え整備事業  
など

## ■青年技術者のことば

性質の異なる2つの官民連携プロジェクトを取り上げましたが、「街のより良い将来像をイメージする」ことが求められた点が共通項として挙げられます。その中で私は「関係者のイメージを具体化する役割」を担ったように思います。その役割を果たすためには、議論を繰り返しイメージを明確化すること（企画力）、分かりやすく伝えること（提案力）、関係者意向・コスト等を調整し最大限実現すること（構築力）が求められました。私は開発計画本部という、中長期プロジェクトの推進・実現を命題とした部署に所属しています。担当するプロジェクトは、街に対する影響が大きいものが少なくありません。これから先も企画力・提案力・構築力を磨き、自らが理想とする街の将来像をイメージしながら、プロジェクトに携わっていきたくと考えています。

## ■すいせん者

高野宏天  
(株)竹中工務店 開発計画本部  
西日本2グループ長

## 官民連携プロジェクトへの取り組み①

## ／御堂筋にぎわい創出社会実験「御堂筋ピクニック」の実施

「御堂筋まちづくりネットワーク」とは、「活力と風格あるビジネス街」として維持発展することを目指して、地元の視点から課題解決策を検討し、行政とのパートナーシップを図りながら活性化に向けた活動を行うことを目的としたエリアマネジメント組織である。私は、「御堂筋まちづくりネットワーク」において、2007年、2013年、2014年の3年間、事務局業務を担当した。とくに2013年からの2年間は、エリアプロモーションの企画、開催及び支援を行う「にぎわい創出部会」の部会運営を担当し、大阪市と連携した御堂筋にぎわい創出社会実験「御堂筋ピクニック2014」の企画立案・事業推進に主体的に関わった。



壁面後退部分を活用したオープンカフェ



壁面後退部分に飲食提供ブースを設置



歩道・側道にキッチンカーを配置



側道部分をアート作品の展示空間として活用



期間限定セントレジスカフェ

## 官民連携プロジェクトへの取り組み②

## ／PPP手法を活用した公募プロポーザル「福岡市中央児童会館建替え整備事業」への取り組み



施設外観イメージ(2013年4月提案時点)

福岡市中央児童会館は、老朽化が著しく、耐震性に課題があることから、早急な建替えが必要な状況となっていた。福岡市は、利用者の利便性向上や市費負担の軽減、計画地の立地特性を踏まえた資産の有効活用の観点などから、民間活力を活用した官民協働(PPP)手法の一つである「定期借地・賃借入居方式」を採用し、2012年度に公募型プロポーザルが行われた。これに対し、代表企業の西日本鉄道株式会社とともにコンソーシアムを構成し、事業提案を実施した。私は、設計事務所、設備・構造設計者と連携し、施設計画に関する提案のプロデュースを行った。